

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関：かごしま授業維新会 連携機関：鹿児島県教育委員会
	セミナー名：【NITSカフェ in KANOYA】 主タイトル：「深い学び」懇談会 副タイトル：九州の事例から学ぶ「深い学び」
	開催日時：令和2年11月21日 13時～16時30分 開催場所：リナシティかのや（鹿児島県鹿屋市大手町1-1） 参加人数と参加者の属性：教育委員会関係7人、大学院関係1人、一般教諭30人

テーマ：

今回の学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善が求められている。しかし、特に「深い学び」に関しては、どのような学びを「深い」とするのか理解できないという声が多く、多くの教員から寄せられている。「深い学び」を実現するには、教員が「深い学び」を実現している子供の姿を具体的にイメージできることが重要である。

そこで、本 NITS カフェにおいては、様々なキャリアステージにある教員と指導主事・学生が少人数グループを編成し、実践事例を基に「深い学び」に関して懇談することを通して、参加者が「深い学び」のイメージを持てることをテーマとした。

内容：

本懇談会は2部構成で実施した。第1部は、佐賀大学教育学部代用附属佐賀市立本庄小学校、熊本大学教育学部附属中学校、鹿屋市立鹿屋東中学校の実践発表を行った。第2部は、事例をもとに子供の学びを見取るワークショップを行った。

第1部

○佐賀大学教育学部代用附属佐賀市立本庄小学校の発表内容

「読む力」の向上を目指して、①力を細分化した構造的な指導、②書くことに関する視点の提示、③作文指導の充実を行った。

力を細分化した構造的な指導に関しては、単元や題材間の資質・能力のつながりを明確に意識して授業を行うこととした。特に1学期は「つながる」段階、2学期は「まとまる」段階、3学期は「高まる」段階として、学校全体で取り組んだ。

書くことに関する視点の提示では、国語科の授業で作文指導を行う際に行った。序論は伝えたいことを短く書き本論は伝えたいことの中身を「はじめに」、「つぎに」、「さいごに」を使い前後の関連を意識して書くなど、相手に伝わりやすい文章の書き方を明確に指導した。

作文指導の充実では、1学期に77の作文テーマを児童に提示することにより、多様な題材で作文を書くことができるようにした。

○熊本大学教育学部附属中学校

研究開発学校として各教科と総合的な学習の時間の間をつなぐ教科、「未来思考科」を新設し、実践を進めた事例を紹介した。

未来思考科とは、教員が提示し課題を生徒が探究活動を通して解決していく教科である。例えば「未来の『未来図』とはどのようなものか？」という課題に対して、生徒たちはインターネット等を活用して解決を目指す。総合的な学習の時間との違いは課題の立て方にある。総合的な学習の時間の課題は、生徒が主体的に立てることが基本である一方、未来思考科では、先述した通り教師が課題を設定する。評価等との関連の説明もあった。

○鹿屋市立鹿屋東中学校

「深い学び」の実現を目指して、授業研究の在り方を模索している。これまでの授業研究は、教師の手立てを中心に授業改善の方向性を話し合っていた。手立て中心の話合いに様々な意見が出た一方、その授業での生徒の思考の変容まで議題として上ることは少なかった。そこで授業研究を、生徒の発話や記述を手掛かりに、生徒の姿で語り合うようにした。生徒の姿をもとに話し合うことで、生徒の内面で行われている深い学びがこれ以上に見取りやすくなった。

第2部

実際の授業動画を観賞し、そこから読み取れる子供の学ぶ姿と教師の手立てを指導案も用いながら見取る授業分析会を行った。授業開始時の子供の姿と終了時の子供の姿を比較し、変容したものを

捉え、何故変容したのかを探し出し、その要因となった教師の手立てを関連付けるものだった。後半は、京都市教育委員会の取組の紹介があった。AI を活用することで、授業研究の在り方が変化していくことの報告があった。

成果：

本懇談会のアンケートより

第1部

- ・研究の話を知ると、新しいことが学べて良い機会になります。自分に生かすことができるのではないかと考えながら聞くことができました。
- ・「教科を超えた学び」「教科の本質に迫る学び」「習得してから活用に至る学び」おぼろげながら今回の研修で明らかになったところがありました。
- ・書くことは大切だと思いつつ、書けない生徒への手立てを悩んでいたが、本庄小学校の話を知り、まずは書いたことを少しでも評価すべきであると考えられるようになった。

第2部

- ・普段の授業に、どれだけオーセンティック・ラーニングの部分を取り入れるべきかと考えながらワークショップを受けることができました。校内研修の材料にしたいと思います。
- ・「知識のネットワーク化」は、大人でもできないのは確かだと思った。いかに知識同士をつなげるか、それはどのようにすべきかを知ることができた。授業の見方も今後生かしたい。
- ・小学校を中心に、様々な教科の授業を通して、具体事例を通して深い学びについて学ぶことができた。
- ・ワークショップがある研修だと自分も主体的に聞くことができます。また自分の意見をアウトプットしたり班員の意見を聞いたりすることで、理解が深まり、とてもよい研修になりました。

※アンケートの結果から、三校の取組や授業実践をもとにワークショップを行うことで、深い学びを実現する手法や生徒の学びを見取る力についてより深く学ぶことができた。「深い学び」のイメージをもつことにつながったことが伺えた。

アイデアや工夫したこと：

- ・三校の取組内容の発表後、その内容に対して班内で懇談する時間を設けた。発表者には各班をまわっていただき、班内で出た質問に回答いただいた。少人数で話しやすい雰囲気のもと、マトリクス表に意見をまとめることで発表内容を深く考える場となった。【写真1】
- ・実際の授業動画を参観したあと、子供の学びについて懇談を行った。実際の授業の場面を用いることで、班内の懇談の場が具体的になった。【写真2】

<写真・図など>



【写真1】三校の実践を聞いて、①特に参考になった点、②もっと質問したい点の2点について協働的にまとめていった。発表者に各班をまわってもらうことで、質問しやすい雰囲気をつかった。



【写真2】実際の授業動画や写真を用いて、ワークショップ型の研修を行った。実際の子供の姿をもとに話し合うことで、話し合いの内容が具体的になった。